



Friendship & Exchange

SCOTLAND GAZETTE Vol.12



スコットランドの風

'Gaoth bho Alba' NPO法人 日本スコットランド交流協会ニュースレター 発行責任者：フランク ボイランド 2019.4.6発行



目次

年次総会のお知らせ	1
会長挨拶	2
「Moving - An opportunity to grow and enhance our impact for Scotland」	
「ロバート・バーンズの真実の言葉」	3
Scotland Day in Tokyo 2018	4
JSA奨学生帰朝報告会	5
Burns Night	
スコットランドからの来訪者	
「Scottish Rugbys friendship with Japan」	6
グラスゴー大学同窓会	7
JSAオリジナルタータン	
支部活動報告	8
Japan Series University of Stirling	10
展覧会「バレルコレクション」	11
新理事紹介	12
映画のロケ地で巡るスコットランド / 参加者募集	



2019年JSA^{NPO法人} 日本スコットランド交流協会 年次総会のお知らせ

本年もスコットランド国際開発庁との共催で NPO 法人 日本スコットランド交流協会の総会を開催いたします。平日の夕方、皆様お忙しいところ恐縮ですが、万障お繰り合わせの上、ふるってご出席下さいますよう宜しくお願い申し上げます。なお、会員でない方もご参加いただけます。JSAを知って頂ける良い機会ですので、ご家族、ご友人にも積極的にお声掛け下さい。総会欠席の場合は、必ず委任状の提出をお願いしております。お送り致します案内のはがきにて委任の手続きをお願い致します。

会場：英国大使館 ニューホール

日時：2019年5月31日(金) 17:00～19:30 (開場16:30)

President's Message

Frank Boyland President of the JSA

Scotland has always embraced modernity, diversity and inclusiveness. Scottish people are truly international and so is our Patron Saint, St Andrew.

There can be few national symbols who have more multi-ethnic and unifying appeal than St Andrew. Indeed it is worth recalling that St Andrew himself was not a Scot. Like many of today's Scots, his roots were in the continent of Asia and it's worth remembering that he is also patron saint of Greece, Russia and Romania among others.

My point is that Scotland and Scottish culture has never been insular and our strength, including the strength of the JSA is built on diversity, modernity and inclusiveness and it will ever be so. In these days of Brexit it might seem that Scotland and the rest of the UK are turning away from world and looking inwards. More than ever, we need to work with SDI, the British Embassy, British Council and the various alumni groups and other stakeholders in Japan to keep talking and use academic, cultural, artistic, sporting and business exchange to let everyone know that Scotland is still open, engaged, warm and welcoming.

Activities like our hugely successful Scotland Day in Tokyo and the SRU's Schools of Rugby programme give us a platform to reach out and show exactly who we are. We must all continue to work to find even more ways to encourage yet more dialogue between Scotland and Japan.

I hope you enjoy this Spring edition of our newsletter. Thank you for your continued support and participation at JSA events and thanks to everyone who works so hard behind the scenes to make the JSA such a strong, vibrant and fun organisation.



Frank with his wife Kristine (right) and Dr Taeko Seki (left)

Moving - An opportunity to grow and enhance our impact for Scotland

Dr Stephen Baker スコットランド国際開発庁 日本代表・JSA大使



Scotland has had an office in Japan now for some 30 years. Over that time we have occupied a number of different premises - actually initially locating within the Offices of Ben Line who have supported our operation right through to the present day.

When I joined SDI in 2006 the office was in Toranomon at that time there were only 5 members of staff and the country head was Frank Boyland now president of the JSA. It was a friendly

office but rather oddly shaped. When work started on the road and tunnel to Toranomon Hills our building was vibrating all the time and we decided to move. We looked at many different premises but I was really focused on making sure our next premises would be one where we could showcase Scotland and easily host meetings for our selves and on behalf of the Scottish Companies that visited us.

The final choice was the Imperial Hotel. It was in this office that we grew our staff to 9 people and were able to leverage the office and the capabilities of the hotel to host many meetings, events, even provide accommodation. Our ability to continue to develop the relationship between Japan and Scotland grew with that move to the Imperial Hotel.

In March of this year we will make another move. This time we will move into one of the houses on the Embassy compound. We will have our own space and the opportunity to bring a Scottish flavour to the ground floor which will be used by all the Embassy for meetings and events. Just as the move to the Imperial Hotel allowed us to expand and lift our activities to a higher level. This move to the British Embassy will bring many positive elements. We will continue to drive our activities on behalf of Scotland in the same dynamic way but now also to deepen the partnership with our colleagues at the Embassy and collaborate to greater effect for the UK and of course for Scotland.

In the uncertain world we find ourselves today working in partnership and combining our resources where it makes sense is the way in which we can move forward most powerfully.

Of course I always feel that SDI has a secret weapon - the Japan Scotland Association - you have always been our partner and as we look to take advantage of our new home to deepen the way we work with our Embassy colleagues - I'd like to ask the members of the JSA to continue your work and partnership with us to build the bridges of friendship and cooperation between Japan and Scotland.

ロバート・バーンズの真実の言葉 Nae man can tether time or tide.

在エディンバラ総領事 高岡 望



昨年夏まだ暑かったころ、外務省にお越しいただいたフランク・ボイランド会長、関妙子名誉顧問に初めてお会いしてから、早くも半年になろうとしています。

その後エディンバラに着任した昨年10月は、すでに日一日と日照時間が短くなり、日増しに太陽が恋しくなる頃でした。心優しいスコットランドの皆さんは、「あなたが

が着任したのが、必ずしも当地のベストシーズンでないのは申し訳ない。」と、声をかけてくれます。本当は私は、かつてストックホルムに駐在したことがあるので、午後二時に暗くなるのもマイナス25度の外出も平気なのですが。

そうこうしているうちに、2018年も残りわずかとなったころ、スコットランド議会の議長を務めるケン・マッキントッシュさんから、バーンズ・サバーへのお誘いが届きました。日本スコットランド交流協会の皆様なら先刻ご承知の、偉大な郷土の詩人、ロバート・バーンズの誕生日1月25日に開かれる、一度食べたら忘れられない郷土料理、ハギスを囲んでの夕食会です。

当日スコットランド議会の中に用意された会場では、ハギスへの賛歌を13歳の少女が完璧に暗唱したり、7月に日本公演を予定しているAyrshire Fiddleの演奏があったり(<https://twitter.com/JapanScotland>の1月28日分で紹介しています。少年少女の楽しく小気味よい演奏を是非応援してください。)、と、出席者はスコットランドの雰囲気満喫といった様相です。

しかし何と言ってもハイライトは、議長の呼びかけに応じた20人の議員と総領事、名誉領事による、Tam O' Shanterの暗唱リレーでした。

実は年末に議長秘書から暗唱リレーに参加しないかと案内があったときは一瞬たじろいだのですが、ここで逃げては初代在エディンバラ総領事の大家、大塚清一郎大使の教えに背くことになるかと敢然申しこみました。大塚大使からは、「スコットランド人と本当に打ち解けるためには、バーンズの詩を覚えなければならない。まず Tam O' Shanter から始めてはどうですか。」とアドバイスをいただいていたのです。

しかし当日になってみると、なんと議長の呼びかけに応じていたのは、外交官の総領事では半分以下というありさま。ロシア、中国、アメリカが棄権する中で、アイルランド、ポーランドといったいかにも張り切りそうな面々のほかは、スコットランド人の名誉領事ばかりです。「棄権もあり得たかな。」との弱気が頭をもたげてきましたが、時すでに遅し。

そんな思いが顔に出たのか。女性の副議長からどこを暗唱するのかと聞かれ、小声で割り当てられた最初の行(標題にあげた一節です。)を披露すると、もっと感情をこめないとダメだと、彼女自らの例を示されました。

それでふっきました。ついに一番手として手本を示すように、朗々とした議長の暗唱が始まると、あっという間に私の番です。かつて駐在したことのあるローマ仕込みの巻舌のr音で、思い切りのスコットランドなまりを披露しました。

Nae man can tether time or tide (「誰も時の流れを変えること

はできない。」)

The hour approaches Tam maun ride (「運命の時が来た。馬にまたがって出発だ。」いずれも私の試訳です。)

ふと、Brexitの期限が迫る中で、暴風雨の中未知の旅路に向かう、メイ首相のようだとおの思いが、脈絡もなくよぎります。

割り当てられた六行が終わると、それまでの誰よりも大きな満場の拍手を受けました。そして20人全員の暗唱がおわったところで議長から「日本の総領事が一番良かった。」との発言を頂き、再度の拍手喝さいの中で、ささやかながら日本の旗をたてたと、達成感に浸ることができました。

ところでこのフレーズは、人生の厳しい場面に立ち向かわなければいけないという思いをいやというほどしてきた、スコットランド人の魂の叫びのように聞こえないでしょうか。

その後、これもスコットランド議会の会場で行われた、日本スコットランド友好議員連盟の設立総会で冒頭のあいさつを頼まれ、またもや「Nae man can tether time or tide. The hour approaches Tam maun ride.」とやった後に、「まさにスコットランドが日本と付き合うべき時代がやってきました、皆さんもタムになったつもりで、馬に乗って出発してください。」と言ったら、大受けしました。

偉大な文学は人生のあらゆる場面での道しるべになるのでしょう。まさに、ロバート・バーンズの真実の言葉です。

ところで来年のバーンズ・サバーをどうやって乗り切ったらよいのか。これが私の現在の最大の悩みです。

✕ エアーシャー・フィドル・オーケストラ 演奏会

2019年7月3日、エアーシャー・フィドル・オーケストラ (Ayrshire Fiddle Orchestra) の演奏会が大妻女子大学の妻講堂で、JSA後援、大妻女子大学文化イベントとして開催される運びとなりました。65名の10代、20代のフィドラー (バイオリン) 演奏者が伝統的なスコットランドの曲を演奏します。1986年から活動の一部として始まった国際的なコンサートツアーでは、ホワイトハウス、ブロードウェイ、シドニーのオペラハウス、欧州議会を始め各国議会での演奏など幅広い活動を続け、そのレベルの高さで定評があります。今回初来日、大妻女子大学の副学長井上美沙子先生のご尽力により、1200席の素晴らしい大妻講堂を提供していただけることとなりました。エアーシャー・フィドル・オーケストラは慈善団体としての登録されていてその趣旨から今回の演奏も無料です。JSAの会員の皆様のみならず、多くの方に素晴らしい演奏を聴いていただきたいと思います。(関)

- ・ 会場：大妻女子大学
- ・ 大妻講堂
- ・ 日時：2019年7月3日
- ・ 開演：午後6時
- ・ (開場：午後5時半)



Scotland Day in Tokyo 2018

2018年11月24日に東京芸術劇場にて盛大に開催されました。会場をスコットランド一色に染めた内容の濃い一日となりました。

第1部 留学フェア



第1部は留学フェアを実施致しました。スターリング大学・ストラスカイド大学からは留学生オフィスの担当官が来日し、大学についてのプレゼンテーションを実施下さいました。また、セント・アンドリュース大学やグラスゴー大学、エディンバラ大学からは卒業生が出席し、各大学のブースにて留学希望者の相談に乗りました。他にも多くの大学から送付頂きましたパンフレットを来場者に配布し、来場者からご好評を頂いております。(小根山)

第2部 ライトニングトークon Scotland

第2部のライトニングトークでは、各界の第一線で活躍されている方々に、各10分でご自身の熱い思いを表現して下さいました。今回 Miles Oglethorpe氏 (Scotland's links with the emergence of Modern Japan)、清水健氏 (シャーロックホームズとエディンバラ) がイギリスから駆けつけて頂きました。中西光雄氏 (Auld Lang Syneと蛍の光) には、蛍の光を歴史的観点から語って頂きました。大熊進一氏 (万華鏡発明から200年) には万華鏡とスコットランドの関係を、そして昨年のフリンジフェスティバルに演者として参加された青木砂織氏 (エジンバラフリンジからフィンドホーンへの旅路) には、エジンバラでの地元の人々との交流に関しても発表して下さいました。ロキヤロン社日本代表の網島実氏 (タータンの歴史) からは、タータンのデザイン・歴史・魅力を発表しました。(畠中)



第3部 特別講演 金坂 清則先生

『イザベラ・バードとスコットランド』を受講

イザベラ・バードにもスコットランドにもまったく疎い、素人の私にもわかりやすいレクチャーでした。女性旅行家イザベラ・バード研究の第一人者 金坂先生が冒頭、時間が足りないとおっしゃった時点で、おもしろい話が聞けると直感した通り。

バードが訪日した時代と背景を紐解く、関西アクセントの軽妙な語り口にどんどん引き込まれていきました。現地踏査を基に真の追体験をしたうえでの翻訳の重要性を熱く語る先生。

私の想像を超えて圧倒されるバードの行動力に思いを馳せると同時に、金坂先生の自由な発想と深い洞察を礎にした研究人生にこそ『ツイン・タイム・トラベル®』したいと思いました。機会があればフルバージョンを拝聴したいです。ありがとうございました。

(小野)



第4部 スコットランド・ナイト

スコットランド・ナイトは Ally & Dominic 両氏による力強いバグパイプ演奏で華やかに開始を告げられました。JSA会長 Frank Boyland 氏の挨拶に引き続き、参議院議員の古川俊治氏 (JSA顧問)、スコットランド国際開発庁日本代表 Stephen Baker 氏 (JSA名誉大使)、東京芸術劇場での開催にご尽力いただいている芸術劇場副館長の高萩宏氏からそれぞれご挨拶を頂き、第2部でトークをされた Miles Oglethorpe 氏の乾杯の音頭で楽しい歓談、会食へと移りました。ケーリー (Ceilidh) ダンスを会場で楽しみ、さらにその後劇場前の広場へと繰り出し大変な盛り上がりのうちに幕を閉じました。(関)



2018年 帰朝報告会



12月22日に早稲田大学大隈会館の楠亭にて2018年度留学生帰朝報告会が行われ、9月にスコットランドの大学院修士課程を修了されたJSA会員の2名の方からお話を伺いました。2017年度のJSA奨学生である初田清佳さんにはスターリング大学で国際ビジネスを学んだ中で気が付いたことや現地での生活などについて、また、エディンバラ大学にて国際政治学を修了された小山舞さんからも現地の学生寮での経験や修士論文に関してお話頂きました。短い時間ではありましたが、お二人が直接参加者からの質問に答えるなど、活気あふれる会となりました。今後スコットランドの大学への留学を希望している参加者からは有意義な時間だったと感想を頂いております。

(小根山)



初田 清佳氏



小山 舞氏

キアラ・マクナリー 氏来日



McNallyさんの日本訪問記

スターリング大学国際交流課のCiara McNallyさんがJSAのScotland Day第一部留学フェアのために初来日されました。

In November, I had the pleasure of visiting Japan for the first time. My time in the country's capital was largely spent visiting the University

of Stirling's Japanese partners and esteemed colleagues. I was also kindly invited to a number of the Japan Scotland Association's events; most notably a Scottish gin tasting evening, a special Q&A screening of 'Whisky Galore', and

Burns Night

Colin Macleod 跡見女子学園大学 助教

Every January, Scottish people celebrate the life and work of their national poet, Robert Burns. Born in 1759, Burns lived only 37 years, but in that time he wrote many wonderful poems that are still recited today.

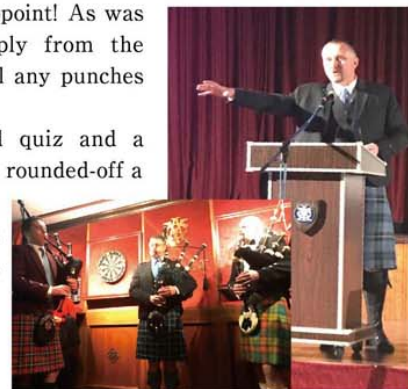
On January 26th, more than 100 people, including many JSA members, gathered at the Yokohama Country and Athletic Club to honour Burns. Guests were piped into the hall by members of the San Diego-based House of Scotland Pipe Band.

Keeping with tradition, a short Scots prayer known as the Selkirk Grace was recited before dinner. Next, the haggis, carried by the chef, was piped into the hall and a theatrical recital of Burns' Address to a Haggis was given. Now the meal could begin. Haggis, neeps and tatties were followed by cock-a-leekie soup and a choice of braised beef shanks, salmon, and a vegetarian option. This was followed by the classic Scottish dessert, cranachan, coffee and Scottish shortbread.

A traditional Burns Night consists of many recitals and speeches. A beautiful rendition of Ae Fond Kiss was given, as well as the Immortal Memory, a speech celebrating the enduring spirit of Burns, someone who did so much to popularise Scottish culture and heritage.

Lightening the mood, our President, Frank Boyland, gave the Toast to the Lassies. Originally, this speech was given to thank the ladies who had cooked the evening's food, but the modern Toast to the Lassies is a light-hearted speech affectionately poking fun at the women in our lives. Frank didn't disappoint! As was only fair, the Reply from the Lassies, didn't pull any punches either!

A Scottish-themed quiz and a lively ceilidh dance rounded-off a wonderful evening. Make sure you don't miss Burns Night in 2020 - it's truly a highlight of the Scottish calendar!



the highly anticipated Scotland Day. The annually celebrated Scotland Day was a huge success due to generous spirit of the JSA members, and enlivened with an 'al fresco' ceilidh!

I hope that my work at the University of Stirling will continue to facilitate international mobility between Scotland and Japan, and encourage both nations to share and delight in one another's cultural traditions. My special thanks goes to Taeko Seki, who made this trip possible.

(Ciara McNally)

Scottish Rugby's friendship with Japan Toni Blackhurst

Head of Marketing & Sponsorship Scottish Rugby



Scottish Rugby signed a long-term partnership with the Japanese Rugby Union in 2013 and have since then, enjoyed regular visits to Japan to develop this relationship. After hosting the Japanese team at BT Murrayfield in 2014 to play their first ever fixture at a Tier 1 international stadium, Scotland played 2 fixtures against Japan in 2016, the latter game between attended by the Emperor and Empress.

The relationship between Japan and Scotland was further strengthened with the forming of a partnership between Scottish Rugby and the prefecture of Nagasaki in August 2016. Since then, numerous activities have taken place including a school boys rugby tour from Nagasaki to Edinburgh, all 110 schools in Nagasaki have received Scotland rugby balls, handed over with due ceremony to each school, a new Nagasaki strip has been designed by Scotland's kit partner Macron and incorporates the new Nagasaki tartan, designed in Scotland. A number of players and coaches have visited Nagasaki with thousands of children to date participating in coaching sessions.

The highlight of this partnership was in August last year, when Alastair Kellock, former Scotland captain took a group of 24 young boys from Scotland's Schools of Rugby to Nagasaki for a week-long rugby and cultural exchange. The Schools of Rugby programme supports 15 schools in some of the most deprived areas across Scotland, providing opportunities for disadvantaged young people to develop their physical fitness, cognitive skills and personal qualities. The children enjoyed eight days in Japan and played two games against Nagasaki U16s. The tour also saw the players experience a new culture as they tried their hands at calligraphy and archery, as well as taking part in Nagasaki's traditional Kunchi autumn harvest festival and attended a peace ceremony to mark the anniversary of the atomic bombs dropped on Hiroshima and Nagasaki in 1945.

Looking ahead to this year and the Rugby World Cup, plans are in place to further strengthen the relationship with Japan. Yokohama, the venue for two of Scotland's pool games against Ireland and Japan will enjoy a number of activities to help raise the profile of rugby in the prefecture. The 21 rugby playing schools in Yokohama will each receive a Scotland ball and Scotland branded cap for all rugby playing students. Each school will nominate 1 student to participate in a coaching session with Scotland's Head coach, Gregor Townsend at the end of April - a fantastic opportunity for the young people. The Yokohama Creative Centre has been selected as Scottish Rugby House, a destination for Scotland fans and partners on the Scotland v Ireland and Scotland v Japan match days, with the venue being used by Scottish Rugby and Scottish Development international in between these games to promote the best of Scotland through a number of events and exhibitions.

Nagasaki will welcome the Scotland team in early September for the final stages of their Rugby World Cup preparation, hosting the team for a week's camp before they move to Tokyo. And the relationship that has been building over the past 6 years, will come to a sporting pinnacle when Japan and Scotland compete in the final game of the pool rounds on the 13th October to determine who progresses to the quarter finals. Friends on and off the pitch, this game will be a fitting tribute to the two



countries who have developed such a close relationship over the year's and regardless of the result, the friendship will continue for many years to come.

元在エディンバラ日本国総領事館副領事 村田陽子

在エディンバラ日本国総領事館に平成26年の春から約3年間、広報文化を担当させて頂き、スコットランド交流協会(JSA)の方々にはこの間大変お世話になりました。

私もこのJSAのニューズレターに投稿されるみなさまと同じく、同総領事館に勤務しはじめて早々に、スコットランドの大ファンとなりました。人々の温かさ、文化、自然、とても素敵な地域です。スコットランドの歴史的な街並み、壮観な自然の景色、いつ見ても素晴らしいと感じます。また、業務の一つとして行ったスクール・ビジット(学校訪問)も、この3年間で延べ約60校を訪問しましたが、子供たちの日本への関心はとても純粋で、この際の印象も私をスコットランドのファンにさせた要因の一つであると思っています。

今後もスコットランドの新たなファンの誕生を期待したいと思います。



グレンフィナンにて (H29.9)

グラスゴー大学同窓会



2018年年末にグラスゴー大学よりKontis教授が来日されたのに合わせ、新宿三井クラブにて同窓会が開かれました。JSAからはFrank Boyland会長、関妙子名誉顧問、SDI長官Stephen Baker名誉会員がゲストとして出席致しました。Kontis教授からはグラスゴー大学と日本の近代化との関わりについてプレゼンテーションがありました。今回、卒業生だけでなく留学経験者や家族の方も出席され、様々な方とお話しながらアットホームな時間を過ごしておりました。

(小根山)

世界最大手のタータンメーカー、ロキャロン社長来日

昨年10月16日、英国王室をはじめ世界のセレブから愛されている世界最大手のタータンメーカー、ロキャロン社の社長でタータンデザイナーでもあるDawn Robson-bell氏が、ベルサール渋谷ガーデンで開催されたヨーロッパテキスタイルフェアの為に来日されました。会場では、伝統的なタータンのみならず斬新なタータンも展示されていて、Robson-bell氏と網島実氏（ロキャロン社日本代表で日本ユティコ株式会社社長）とタータンについて楽しくお話をさせて頂きました。Robson-bell氏、網島氏共にJSAの会員として貢献頂いています。なお、ロキャロン社の製品は、ロキャロン社のインターネット上の唯一の正規販売店でJSAの法人会員でもあるビーエグ株式会社様が運営するウェブサイト「キャロン国」でかなりお手頃な価格で手に入れることができます。(関)



キンロックアンダーソン社 創業150周年記念イベント開催

昨年11月28日、銀座和光でタータン&キルトメーカーのキンロックアンダーソン(Kinloch Anderson)社の創業150周年記念イベントが開催されました。イベントはKinloch家5代目のDouglas会長と、JSAの会員でキンロックアンダーソン社の日本総代理店(株)マイ・コーポレーション社長の阿知波英男氏、SDI代表のStephen Baker氏のスピーチで始まり、Douglas夫人によるキルトスカート製作のデモンストレーションが行われるなど楽しい雰囲気になりました。会場には三つのロイヤルワラントに裏付けされた同社の伝統と歴史を紹介する品々が展示され、スコットランドのタータンについてさらに知識が深まる良い機会となりました。(関)



■ JSAオリジナルタータン作成に向けて

この度、世界最大手のタータンメーカーであるロキャロン社の社長Dawn Robson-bell氏と、ロキャロン社日本代表の網島実氏のご尽力により、永年の夢であったJSAのオリジナルタータンを作成することになりました。タータンデザイナーでもあるRobson-bell氏に、日本とScotlandの架け橋として活動をしているJSAに相応しいデザインを考えて頂き、スコットランド自治政府管轄のスコットランドタータン登記

所へ正式登録申請をし、サンプル生地も作って頂けるという幸せな状況です。JSAの皆様には次回の総会でご披露できるよう迅速に進めていくつもりです。JSAオリジナルタータンのマフラー、ストール、ネクタイなどの製品の作成も視野に入れておりますので楽しみにお待ち下さい。(関)



JSA 東京

Teatime English (英会話)

日時：10月13日(土) 午後4時～5時半

場所：JSA東京本部



ファッションの秋ということで、着ているものや髪形など見た目の英語表現について練習しました。

先生が、知らない言葉を色々教えて下さり、ペアワークで有名なスターや、人の格好などの英語の説明を皆に発表しました。

その他、'What do you have in common?'と、お互いの共通点を探し合うために、色々質問し合うのは、とても楽しいワークでした。

誰でも、英会話のどんなレベルの方でも楽しく英語が学べます

第13回 スコティッシュキッチン



ようやく気持ちよい季節となりました。

10月13日(土)は、新たに参加する会員さんを含めた8人が東京本部に集まり賑やかに料理を教えてくださいました。

今回はスコットランド人のお母様から丁寧に作り方をおそわり、自分自身の食生活に活かしているKEVIN ROMAOさんを講師にお迎えし、スコットランドのおふくろの味ともいわれるStoviesなど4品を作りました。Stoviesは日本の肉じゃがに似ています。スコットランドの人は少々風邪ではお医者にかかず、これを食べて治してしまうそうです。こつは美味しいソーセージを使うことだそうです。

☆メニュー

Appetizer /

crackers with smoked salmon and cream cheese

Starter /

Cock-a-leekie soup

Main /

Stovies

Dessert /

Cranachan



JSA 九州



宮崎公立大学では、2013年度にスターリング大学と学術交流協定を結び、学内選抜試験で選ばれた代表学生を約5か月派遣しています。夏休み期間中にも、異文化実習の一環として、希望する学生が同大学の語学研修に参加しています。このプログラムには一昨年度は6名、昨年度は9名の学生が参加し、スコットランドの美しい自然や歴史ある建造物に触れ、大変有意義な時間を過ごしました。また、昨年にはスターリング大学のスタッフであるJennifer Harrison、Lisa Wilkisky-Dick 両氏が本学を訪問し、友好を深めました。今後も本学とスターリング大学との関係をさらに強め、両校の交流を盛んにしていきたいと思っています。(宮崎公立大学生・エジンバラ城にて)

JSA 東北



2018年8月23日～30日までの間、JSA東北支部事務局の香取真理氏(青森公立大学 教授)がVisiting ProfessorとしてStirling大学に滞在した。滞在中は本務校サバティカル期間の研究テーマについて調査・研究を行うとともに、Stirling大学学長のMcCormac氏と面談し、Stirling大学と青森公立大学の今後の交流について、意見交換を行った。また、週末にはハイランド地方を訪れ、美しいスコットランドの風景を満喫することもできた。非常に有意義なスコットランド訪問であった。(Stirling大学 McCormac学長と学長室にて)

JSA 関西 関西支部の活動報告

英会話教室 (10月2日、1月12日)

とよなか国際交流センターにて開催。講師はモード・ラムゼイさん。英会話そのものだけでなく、文化や習慣の違いなども学んでいる。10月、1月共に8名が参加。特に1月は5歳と1歳のお子さん連れの参加があった。モード先生はThe Scottish Academyで1歳児からの英国式幼稚園教育に携わってきた方で、少し退屈してきた子供たちを上手くあやしながら英会話教室をすすめられ、思いがけない楽しいひと時となった。モード先生がいつも強調されることは、我々日本人が学校で習ってきた英語とは随分ちがう。例えば、written English は、日常会話に決して使ってはならない、非常に攻撃的な言葉と受け止められるということ。また、Body Languageや3 rhythmなどの英語特有の表現などについても教わっている。



スコットランド料理教室 (9月9日、12月2日)

春夏秋冬のスコットランド料理をモード・ラムゼイさんのアドバイスを適宜受けながら、英語レシピにより自分たちで作ってゆくというスタイル。9月は11名、12月は15名が参加。9月はいつもと趣向を替えてAfternoon Teaを楽しんだ。Cream cheese & Celery Sandwiches, Cucumber Sandwiches, Sweet Milk Scones, そしてButterfly Cakes というメニュー。また Afternoon Tea には決して現れない Gooseberries Fool を an extra menu として追加してもらった。Scottish Afternoon Tea は very simple を旨とし、厳しいマナーを通じてコミュニケーションを図るという日本の茶道と相通ずるところがあるようだ。12月は、スターターに Prawn Cocktail, メインは Roast Pork with Sage & Onion Stuffing、付け合わせには Roast Potatoes, Baked Tomatoes。デザートは Cloutie Dumpling というクリスマス控えて、ちょっと豪華なメニュー。1kgのブロック肉を調理して、オープンへ。同時進行は、メインイベントである スコットランド伝統デザート

Cloutie Dumpling。Cloutieという名前の由来は、スコットランドで「クロス布 (Cloth)」のことで、「事前にレシピを読んでいてももうひとつイメージが湧かず謎!作りだしても謎!得体の知れない何が出来るか?それだけに完成したあとの驚愕たるや?そしてその美味たるや!」



とはこの調理に2時間以上つききりだったSさんの感想。Currants (黒スグリ)、Sultanas (干しぶどう) やオレンジピールと牛脂、各種香辛料等が材料で、各テーブルの出来上がりはオレンジの香りやシナモンの香りの高いもの、黒スグリや干しぶどうの味の濃いもの等それぞれかなり違っていたが、各テーブルとも自分のところの出来が一番!と思いつつ美味を堪能。あわただしい中、肉をオープンに入れ、クルーティを鍋につるした後はワクワクしながら待つだけで、その間ティータイムを持つことが出来た。

JSAウイスキー倶楽部 (11月3日)



宝塚市・仁川のカフェ・ハッセルハウスにて11名が参加。今回のテーマは「新世界のウイスキー・アジアvs.ヨーロッパ」。「アジアvs.ヨーロッパ」の組み合わせで6種類をブラインドテイスティング。最後にはジャパニーズウイスキーとスコッチウイスキーの安心感のある香り・味わいを実感した。その後コーヒーとパウンドケーキを楽しんだが、テイスティングしたウイスキーとパウンドケーキとのマリアージュが予想以上に良かったという感想があった。

供試ウイスキー

- 1 バリ島のウイスキー・ドラム グリーンラベル 43%
- 2 ベルギーのウイスキー・ベルジャン オウル 46%
- 3 スウェーデンのウイスキー・ボックス ダルヴィ バッチ3 46%
- 4 台湾のウイスキー・オマー シングルモルト バーボンタイプ 46%
- 5 フレンチウイスキー・Armorik Classic 46%
- 6 インディアンウイスキー・アムルット フージョン 50%
- 7 インディアンウイスキー・マクドウェルズNo1 42%
- 8 ジャパニーズウイスキー・響 JAPANESE HARMONY 43%
- 9 スコッチウイスキー・Ballantine's 17yo Scapa Edition 43%

上方伝統芸能モデル公演(実証実験)へのモニター参加

大阪市主催の下記のビジター (国内外からの観光客) を対象とした上方伝統芸能のモデル公演にJSA会員がモニターとして応募し、ビジター目線で公演に対する意見を具申した。

10月27日(土)

「はじめての文楽人形と女義太夫の世界」 大阪市歴史博物館

2月4日(月)

「上方落語の魅力はじめての“ハメモノ”の世界」 国立文楽劇場

2月12日(火)

「音と美しい装束で楽しむはじめての能楽の世界」 大槻能楽堂

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

関西支部の4月以降の活動予定

- 4月7日(日) 関西ハイランドゲームズ 協賛
- 4月21日(日) スコットランド料理教室・春の料理 西宮・中央公民館
- 5月25日(日) イーリアンパイパー松阪健さんコンサート 宝塚・ハッセルハウス
- 6月8日(土) 英会話教室 とよなか国際交流センター
- 6月29日(土) 第9回JSAウイスキー倶楽部 宝塚・ハッセルハウス
- 7月7日(日) スコットランド料理教室・夏の料理 西宮・夙川公民館
- 7月未定 英国菓子・料理研究家・砂古玉緒さんイベント The British Pudding

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

Japan Series

スターリング大学の『Japan Week』は、7回目を迎える本年2019年、名称を『Japan Series』と改め、約2ヵ月にわたって開催されることになりました。イベントの幕開けは2月4日の『将棋』体験会。翌週2月14日には在エディンバラ日本国総領事館の高岡望総領事による基調講演『Brexit - A Japanese Perspective』が行われました。



『将棋』体験会で講演・指導をしてくださったのはStrathclyde大学の坂田秀三准教授（ご専門は神経科学）。将棋の成り立ちや特性について学んだあと、参加者は実際に将棋盤の前に座り駒の動かし方を習っていきよいよ対局。「将棋は初めてですがチェスは出来ます」という参加者はあっという間に盤面に没頭、一方「将棋はおろかチェスの駒を動かしたこともないです」という参加者（こちらが多数）は駒の動きを説明した用紙と首っ引きになり「難しい、難しい」と呟きつつも勝負に熱中。たまた一番難しかったのは勝敗が決まった時に敗者が「負けました」と言い、そして勝者は喜びを露わにしていけない、というマナーであった様子です。

3月には『教員志望者のための日本語体験講座』、『俳句講演』、『お茶会』、『習字・和手芸（つまみ細工）体験会』、『JETプログラム参加者による北海道トーク』『折り紙展』などのイベントが行われました。（石川）

総領事基調講演

2019年2月14日に、在エディンバラ日本国総領事である高岡望様がスターリング大学で『Brexit - A Japanese Perspective』という主題の御講演をなさいました。スターリング大学の学生や関係者、外部からいらっしゃった方々と共に、春期語学研修プログラムに参加中の早稲田大学・大妻女子大学・東洋英和女学院大学の学生も出席させていただくことができました。

イギリスのEU離脱に関して、アメリカ・中国の経済政策やイギリスに支社をもつ日本企業の例を通して、イギリスがEUを離脱することによる経済的影響力の少なさについて詳しく解説していただきました。イギリスがEUを離脱したとしても、日本との関係を今以上に保つことができる可能性、また21世紀のトレンドであるグローバル化が進んでいくことと相まって、イギリスという国が今後ますます重要であろうことを勉強することができました。（伏見）



手前左からNeville Wylie教授と高岡望総領事、奥左から総領事館の村田陽子副領事、坂田先生、総領事館の現地職員Ben Jonesさん、Kerry Brysonさん



ワークショップで対局を経験する参加者たち



高岡総領事ご講演の様子



開講前の記念撮影：前列左から東洋英和女学院大学笹島教授、高岡総領事、Kerry Brysonさん、Neville Wylie教授。春期語学研修プログラムに参加中の日本人留学生たちと



歓迎会 スターリング大学春期英語研修の参加者歓迎会が2月18日に開かれました。「大学の中だけでなく外でもスコットランド滞在を楽しんで欲しい」と冒頭で歓迎の言葉を述べたのは歓迎会の主催者でもあるスターリング大学の国際化及び提携推進局のDr. Lee Zhuang, Executive Director for Inter

nationalisation and Partnerships。続いて研修の間参加者をサポートする『学生大使』のスピーチ、日本語課外クラスや学生自治会、クラブ、スポーツ施設への参加・利用勧誘があり、記念撮影の後はお茶やお菓子を手にそこそこで歓談の輪が広がっていました。(石川)

展覧会『印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション』開催のお知らせ

グラスゴー出身の海運王ウィリアム・バレルが収集した世界屈指の「バレル・コレクション」が初来日します。ドガの傑作『リハーサル』など、通常は英国外へ貸し出されない名画に触れる貴重な機会をお見逃しなく。(新改)

【展覧会詳細】

会期: 2019年4月27日(土)～6月30日(日)

会場: Bunkamura ザ・ミュージアム他

入館料など詳細は

下記HPをご覧ください。

展覧会HP:

https://www.bunkamura.co.jp/museum/exhibition/19_burrell.html

エドガー・ドガ『リハーサル』
1874年頃、油彩・カンヴァス



© CSG CIC Glasgow Museums Collection

新理事ご紹介



三雲 崇正氏

東京大学法学部卒業後、Edinburgh大学Law School終了。JSA設立当時からの会員で、弁護士として今までも様々な相談に乗っていただいております。この度、理事としてさらにご活躍頂きます。

理事就任にあたって

この度、JSAの理事の一員に迎えていただきました。理事として、我が国とスコットランドの交流がますます盛んになるよう、JSAの活動を発展させてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



白石 賢史氏

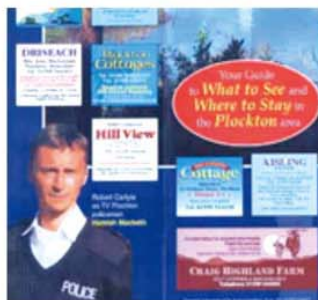
早稲田大学政経学部在学中、Stirling大学に留学。商社に勤務。この度、財務担当理事としてご活躍頂きます。

理事就任にあたって

この度、新たに財務担当理事に就任することとなりました白石賢史と申します。理事会の中では最年少で至らぬ点あるかと思いますが、少しでもJSAの発展に貢献できるよう努めて参りますので、宜しくお願い致します。

● 最終回 ●

映画のロケ地で巡るスコットランド

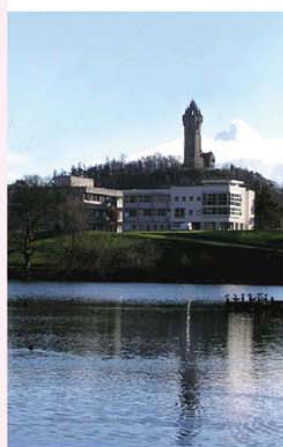


最後の作品は1995年BBCより放映された「マクベス巡査」です。スコットランドの片田舎ロックドウ村で起こる騒動を村の人々とマクベス巡査(ロバート・カーライル)が解決するという、人情あり、友情あり、愛憎ありのポリスストーリーです。監督はダニー・ボイル、

脇を固めている演技派の俳優の芝居も見どころの一つです。架空の村、ロックドウはPlocktonという町を使って撮影されましたが、こちらはイギリス国内旅行者には人気の観光スポットだそうで、スコットランド北西部カイル・オブ・ロハルシェからインバネス行きの鉄道で2駅目。車で6マイルです。Loch Carronの静かな入り江にあり、近郊の荒涼とした丘々もこれぞスコットランドという景色が次々と映し出されます。後半にはイギリスで一番の標高のベン・ネヴィスの山に登る場面も出てきて楽しめる作品です。(光)

「スターリング大学夏期英語研修」(大学・一般コース/高校生コース) 参加者募集

UNIVERSITY of STIRLING



英語コースで英語の習得を目指したい方、どうぞご参加ください！ EUで最も美しいと言われるスターリング大学へ短期留学してみませんか？ Campus内のGolf Course、Swimming Pool、テニスコートなどスポーツ設備も充実しています。16歳以上であればどなたでもご参加頂けます。

*英語コース：上級、中級、初級とレベルに併せて参加できるため、英語能力は問いません。

*寮：すべて個室で、各部屋バス・トイレ付、キッチン共有で自炊です。

*期間・費用：大学・一般コース：4週間(8月5日～8月30日) £2,750

高校生コース：3週間(8月5日～8月23日) £2,150

※学費、寮費、週末旅行(ネス湖1泊も含め)、その他のEVENT代すべて含まれます。

※Flight代と食事(自炊で、1週間3食で5,000円～6,000円程)は別途支払いが必要です。

◎カリキュラムには、週末のエディンバラ・グラスゴー(一日)観光、ネス湖(一泊)旅行、スコットランドダンスパーティー等も含まれています。

ご興味のある方は気軽に連絡ください。会員のご家族、ご友人方もご参加いただけます。

2～3週間の参加も可能です。お問合せ＝関 妙子(Stirling University, Honorary Doctor)

〒161-0033 新宿区下落合3-12-28-1401 Tel/Fax: 03-5988-8785

携帯: 090-7192-4650 E-mail: taeko.seki@gmail.com 締切: 5月末

ご寄付ありがとうございました 初田直樹さま ¥20,000 / よしだみどりさま ¥10,000 / 美山茂俊・明美さま ¥2,000
運営費として大切にに使わせていただきます 山口謙治さま ¥1,000 / 香取真理さま ¥1,000 / その他の皆さま ¥18,000 (順不同)

編集後記

皆さまのお力添えをいただき『スコットランドの風』12号を発行できたことを心から嬉しく思います。Vol.12のデザインはJSA会員であり数々の賞を受賞されてこられたノーマデザイン野間忠博氏によるものです。素敵なニューズレターありがとうございます(飯村)



NPO法人
日本スコットランド交流協会
The Japan Scotland Association



☆本文編集協力 ☆東京: 関 妙子/飯村 英人/新改 僚基
光 恵子/小根山 西/島中 康仁/小野 裕子/Colin Macleod
☆関西: 香川 久生 ☆九州: 前原 正人
☆東北: 香取 真理 ☆Stirling: 石川 教子
伏見 沙央(早稲田大学) ☆制作: ノーマデザイン 野間 忠博

東京本部 〒161-0033 東京都新宿区下落合3-12-28-1401 Tokyo Headquarters 3-12-28-1401 Shimo-ochiai, Shinjuku-ku, Tokyo 161-0033, JAPAN

関西支部 〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町2-5-3-906 Kansai Branch 2-5-3-906 Shin-senri, Higashi-machi, Toyonaka-shi, Osaka 560-0082, JAPAN

九州支部 〒880-0032 宮崎県宮崎市霧島2-23-2 Kyushu Branch 2-23-2 Kirishima, Miyazaki-shi, Miyazaki 880-0032, JAPAN

東北支部 〒030-0196 東京都青森県青森市合子沢山崎153-4 青森公立大学 香取真理研究室内

Tohoku Branch Prof Mari Katori's office, Aomori public University, 153-4 Yamazaki, Goshizawa, Aomori-shi, Aomori 030-0196, JAPAN